気仙沼地域プロジェクト（近海まぐろはえ縄・119トン型）
もうかる漁業創設支援事業実施結果報告

【事業実施者：気仙沼漁業協同組合】

実証期間：平成22年10月5日～平成25年10月4日

気仙沼地域の近海まぐろはえ縄漁業において、119トン型改革型漁船を導入し、低抵抗船型、低燃費型主機関等による省エネ化並びに省人化機器導入による省人化等により生産コストの抜本的な引き下げを図るとともに、魚艙内温度管理の高度化による高鮮度製品増産により水揚げ金額の向上を図り、もって収益性を改善することをねらいとする実証事業を行った。

実証項目

【生産に関する事項】

①省エネ・省力・省人化

②労働環境の改善・安全性の確保

③高鮮度化による付加価値向上

④環境汚染防止・自然保護

【流通・販売に関する事項】

安全・安心な漁獲物の提供

実証結果

【生産に関する事項】

①省エネ船型、大口径低回転プロペラ、電子コントローラ付き減速機、低燃費型主機関及び発電機を導入し、適正速度運航により省エネ化を図るとともに、幹縄格納機等の省力漁労機器の導入により従来船に比し2名少ない13名体制で操業を行った。その結果、年間の操業回数は初年度194回、第2年度197回、第3年度186回で、水揚げ量はヨシキリザメ及びメカジキを主体に初年度386トン、第2年度474トン、第3年度385トンと、各年度とも改革計画の目標値370トンを上回った。当該システムで支障なく操業可能であることが示唆された。他方、年間の燃油消費量は、漁場形成が改革計画策定時に想定した水域（東経150度以西）より沖合い（160度以東）で推移したこともあって、初年度534kl、第2年度536kl、第3年度542klと改革計画の目標値480klを超過したが、従前船（562kl）に比し3．5～5%削減できた。燃油消費量削減は改革計画目標値に及ばなかったが、漁場形成水域の影響を考慮すれば、当該システムは燃油消費量削減に一定の効果があることを示唆している。

②実証船建造に際し1人当たりの寝室面積を拡張するとともに居住区へ空調施設を導入し居住環境を改善した。また、船型改良（遮浪甲板）を行い、荒天時の甲板作業の安全性を強化した。

③漁獲物、魚艙、甲板等の殺菌水による洗浄、魚艙内温度管理の高度化により主要製品の一つであるメカジキの平均価格は、改革計画の目標値（853円／kg）に比し、初年度815円／kg、第2年度908円／kg、第3年度871円／kgと(震災で気仙沼港で水揚げが出来なかった)初年度を除き目標を上回った。他方、ヨシキリザメの平均価格は、サメヒレの世界的需要の縮小もあって改革計画の目標値（244円／kg）に比し、初年度174円／kg、第2年度154円／kg、第3年度114円／kgと大幅に下落した。

④糞尿等排泄設備を設置し環境汚染防止に努めたほか、トリポール設置、サークフック採用による海鳥、海亀の混獲防止を図るとともに、ヨシキリザメを主体とするサメ類の未成魚の放流を実施した。

【流通・販売に関する事項】

東日本大震災によって気仙沼地域の水産関連施設は甚大な被害を受けたが、メカジキ及びヨシキリザメを含む気仙沼ブランドの復興及び地域HACCPの再構築に向け関係者が一丸となり取り組んでいる。

収支の状況について

水揚げ数量は、改革計画目標値370トンに比し、初年度386トン、第2年度474トン、第3年度385トンと各年度とも目標値を上回った。一方、水揚げ金額は、主要製品であるヨシキリザメの魚価が東日本大震災以前の半値になったこと等に起因し、初年度127百万円、第2年度150百万円、第3年度138百万円と改革計画目標値（166百万円）を大幅に下回った。その結果、償却前利益は、初年度△34百万円、第2年度△15百万円、第3年度△31百万円であった。